

Hello! FUJISEI

No.213

70歳以上の死亡者が8割を超える

認知症で意思能力を失うリスクに備えて

平成25年中の死亡者数は、126万8,432人でした。

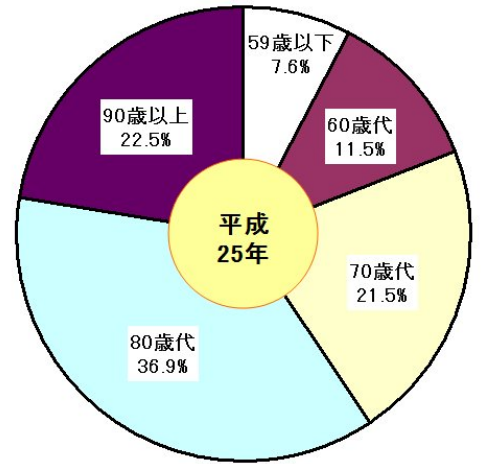
戦後の推移をみると、昭和30年以降は70万人前後で推移していましたが、昭和50年代後半から増加傾向となり、平成15年には100万人を超え、平成23年以降は120万人台となっています。

また、昭和50年代後半から75歳以上の高齢者の死亡が増加しており、平成24年からは死亡数の7割を超えています。さらに、年代による割合

をみると、70歳以上が81%、80歳以上が59%、90歳以上は22%となっています。

高齢化は、認知症のリスクも高くなります。その結果、介護問題だけではなく、意思能力がなくなることで、本人名義の不動産などの資産の管理・処分ができなくなる、相続対策と行っていた贈与が継続できなくなるなど、多くの問題につながります。専門家を交えて、早めの対策を講じる必要があります。

死亡者の年代別の割合



死亡数および死亡率の年次推移

厚生労働省「平成25年 人口動態統計月報年計（概数）」

